

水の事故から、大切ないのちを守る

★幼児クラスに向けて、保健指導を行いました！ ※ youtubeの「サンダルバイバイのうた」をみんなで聞きました。

海水浴や、川遊びなど、水辺の活動が増える季節ですね！
少しの川遊びから、大事故につながることもあります。
全国的にも、水難事故が起きているので、気を付けていきましょうね。

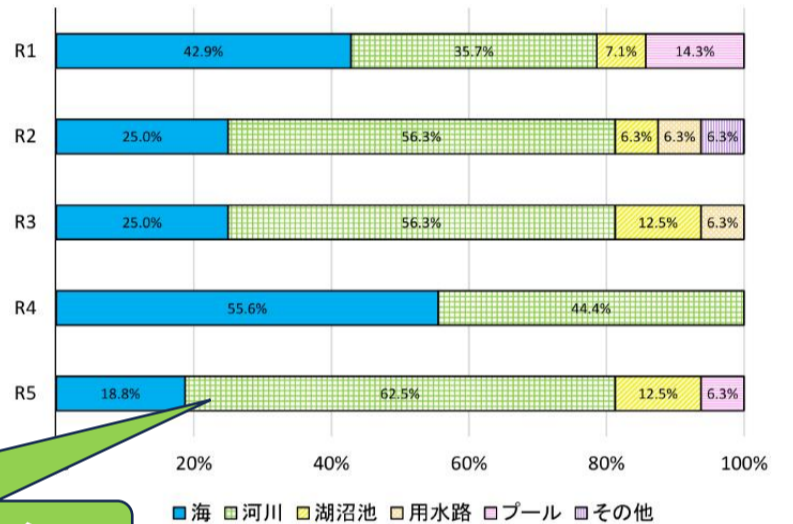
警察庁「令和5年度 夏期における水難の概況」

表1 水難発生状況(過去5年)

	令和元年		令和2年		令和3年		令和4年		令和5年	
	総数	中学生以下	総数	中学生以下	総数	中学生以下	総数	中学生以下	総数	中学生以下
発生件数(件)	461	62	504	60	451	67	459	50	453	49
水難者(人)	594	107	616	101	565	110	638	120	568	106
死者・行方不明者	239	14	262	16	212	16	228	9	236	16
死者	237	14	260	16	204	16	225	9	235	16
行方不明者	2		2		8		3		1	
負傷者	112	29	73	15	77	15	81	16	79	20
無事救出	243	64	281	70	276	79	329	95	253	70

注:「発生件数(件)」の、「中学生以下」欄は水難者が中学生以下のみであった件数を示す。

死者・行方不明者(中学生以下)の場所別構成比の推移



子どもでは、「河川」での発生が、最も多い

※やまぜんこども園の周辺では、平成24年4月茨木市安威川で、令和元年9月高槻市芥川で、水難死亡事故が起こりました。この二つの事故は、小中学生が浅瀬で遊んでいた時に起こったものです。

※西河原の安威川の事故では、4人の生徒児童らが、コンクリートブロック上で鬼ごっこをし、そのあと靴を脱いで川に入りました。3人が浅瀬の下流側の深みにはまり、児童らは救出されましたが、助けに入った男性が1人亡くなりました。

※芥川の事故では、川遊びに来ていた男児と祖父母が亡くなられています。

(参考:太田小学校、こだま より)

茨木市教育委員会より

【水難事故防止に向けて 市民のみなさまへのお願い】

★危険な場所で遊んでいる子どもを見かけたら、注意する。

(河川には、見た目では分からない深さのある箇所がたくさんあります。)

★子どもだけで水辺には行かせない。

★立入禁止区域、危険区域ではぜったいに遊ばせない。

★雨が降りそうなときや雨が降ったあは水辺に近づかせない。

もしもの時の合言葉は「**浮いて待て**」

茨木市の小学校では、水難事故に遭遇したときに最も効果のある「背浮き」を習得するために「浮いて待て」を体験されます。(着衣水泳を体験されることもあるようです)

「浮いて待て」のポイント

- あごを上げる
- 手足を大の字にする
- 体の力を抜く

これをすれば、体が自然に浮くので、助かる確率がUP。また、大声で助けを呼ぶのはダメ。大きな声を出すと肺の空気が抜けて沈んでしまいます。反対におぼれている人を見つけた時は、絶対に助けに水に入ってははいけません。自分がおぼれる危険性も。

すぐに「119」に通報して、おぼれた人がつかまれるように空のペットボトルなどの浮くものを投げましょう。



川や海で遊ぶ時は
気をつけよう

ホールにて保健指導

今回の保健指導は、水辺の安全についてをテーマに、サンダルバイバイの歌をホールで映像を見ながら聞き、お話をしました。本日配布している、「サンダルバイバイおやこ条約」について、おやこ条約を結んで下さいね！！そして脱げにくいサンダルをはいて水辺の遊びを楽しんでください！



さんの、



いのちを
まもろう

Q&A



3

もし、モノが流されたら...
バイバイしよう
(ぬげやすいサンダルはやめよう)

ながされたものをおいけて、おぼれる子もいるよ。
みずあそびするまえに「サンダルバイバイおやこ条約」や「サンダルバイバイのうた」、かみそして、もし、サンダルやぼうし、おもちゃなどがながされたら、おいかけずに、ゆうきをもってバイバイしてね。

夏本番

みんなのうた

サンダルバイバイのうた

Q&A

サンダルバイバイおやこ条約はこちら



8

みずあそびは
おとなといっしょに



サンダルバイバイ



AQUAkids について



<https://aquaproject721.wixsite.com/website>



NPO法人AQUAkids safety project
代表 すがわらえみ
大阪市北区曽根崎2-16-19メッセージ梅田ビルONtheUMEDA
お問合せ aqua.project721@gmail.com



活動内容

水難事故や水辺の安全に関する啓蒙・教育活動

1. 子どもたちを危険な水難事故から守り、予防する方法を伝える
2. 事故が起きた時や、緊急時に大切な判断・行動・手当の方法を伝える



おとなの
なまえ

叱らないことを約束します。

こどもの
なまえ

(できれば、ぬげにくい、あたらしいサンダルか、アクアシューズをかってもらえたらうれしいです)

なくしたからって、しからなくてください。
ぼく・わたしは、サンダルやぼうしやおもちゃがながされたら、じぶんのいのちをまもるため、おいかけずに、バイバイします。

おやこのちかい

サンダルバイバイ
おやこ条約



プロジェクトのビジョン

水辺からの帰り道、いつでも、どこでも、だれもが「楽しかった」と笑顔で言えるように

プロジェクトのミッション

子どもの水難事故予防を啓蒙。楽しい水辺を実現する。

